

11月14日は「世界糖尿病デー」であった。糖尿病撲滅を
目指して制定されたこの日は、毎年全世界でシンボルマ
ーク「ブルーサークル」が掲
げられ、歴史的建造物などが
ブルーにライトア
ップされる。「ブ
ルー」は国連や空
の色、「サークル
(輪)」は団結を意
味し、「Unite
For Diabetes (糖尿病と
の闘いのために団結せよ)」
というキャッチフレーズを表
している。11月14日はインス
リン発見でノーベル賞を受賞
したフレデリック・バンティ
ング博士の誕生日である。



健康 仲地

沖縄でも徐々にブルーサー
クルやブルーライトアップが
広がってきた。2008年、
翔南病院(芳田久院長)が県
内で初めてブルーライトアッ
プを実施。2009年には中
部地区医師会「糖尿病標準治
療推進委員会」(砂川博司委
員長)主催で美浜カーニバル
パーク大観覧車をブルーサー
クルにすることができた。2
010年は日本糖尿病協会沖
縄県支部(松川初男支部長)

主催で美浜の大観覧車が2度
目のブルーサークルになり、
さらに全国健康保険協会沖縄
支部(宮城勝支部長)主催で
県立博物館・美術館がブルー
にライトアップされた。
糖尿病医療連携活動を展開して
きた。今年4月現在、沖縄県
の日本糖尿病学会専門医は46
人。もはや糖尿病診療は、専
門医と地域のかかりつけ医と
の協力・連携なしには成り立
たない。2005年に日本糖
尿病学会、日本糖尿病協会、
日本医師会の3者からなる
「日本糖尿病対策推進会議」
が設立され、「沖縄県糖尿病
対策推進会議」は翌年に設立
された。今後、同会議が各地
区の活動をまとめ、沖縄の糖
尿病医療連携システムを整備
・運用していく動きがあり非
常に期待している。

世界糖尿病デー

糖尿病医療連携に期待

「日本糖尿病対策推進会議」
が設立され、「沖縄県糖尿病
対策推進会議」は翌年に設立
された。今後、同会議が各地
区の活動をまとめ、沖縄の糖
尿病医療連携システムを整備
・運用していく動きがあり非
常に期待している。

しかし、県民が糖尿病に関
心を持たなければ、せっかく
のシステムもその力を発揮で
きない。まずは健診を受け
る。健診で異常があれば医療
機関を受診して相談する。糖
尿病治療を中断している人は
通院治療を再開する。みんな
が糖尿病に関心を持ち行動す
ることで初めて医療連携シス
テムが役に立つ。「ブルーサ
ークル」や「ブルーライトア
ップ」は単なるイベントであ
ってはならない。多くの県民
に「世界糖尿病デー」が認知
され、糖尿病撲滅の輪が広が
り、沖縄県の糖尿病が減るこ
とを心から願う。

(医師・中部地区医師会糖
尿病標準治療推進委員会委
員、45歳)